

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 2月稚魚調査 速報

●実施状況

令和7年2月27日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は10.8～15.8℃であった。調査地点の風向は森ヶ崎の鼻とお台場海浜公園では北西の風 1.0～3.1m、葛西人工渚では南の風 3.0mであった。調査当日は大潮で、干潮は10時55分、満潮は16時23分であった(気象庁のデータ)。

全地点で、スズキが出現した

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	8:58-10:30	10:57-12:02	12:37-14:17
水温(℃)	10.0	13.1	13.3
塩分(-)	29.4	23.5	27.2
透視度(cm)	>100	62.5	47.0
DO(mg/L)	8.7	8.3	8.9
DO飽和度(%)	93.0	91.4	101.3
波浪(m)	0.2	0.1	0.1
pH(-)	8.0	7.7	8.0
水の臭気	無臭	微下水臭	無臭
備考			

●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	ビリンゴ(r)	ボラ(c)	ボラ(c)
	スズキ(r)	ヒメハゼ(r)	アユ(c)
		スズキ(r)	スズキ(c)
			ヒメハゼ(r)
			ヒモハゼ(r)
魚類以外	ヨコエビ類(c)	ニホンイサザアミ(+)	ニホンイサザアミ(G)
	ニッポンドロソコエビ(+)	ドロクダムシ属(+)	クロイサザアミ(c)
	ドロクダムシ属(+)	ホトギスガイ(+)	シラタエビ(+)
備考	他にポシェットゲオヨコエビ、エビジャコ属、ワレカラ属等が採集された。	他にクロイサザアミ、エビジャコ属が採集された。	他にイシガレイ、チクゼンハゼ、ウキゴリ属等が採集された。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園 採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

スズキ(仔魚)

湾奥から外湾にかけて様々な場所で見られる。仔魚は沖での浮遊生活後に沿岸に向けて接岸回遊をする。内湾の干潟域や人工海浜でハゼ科の稚魚や甲殻類等を食べ、急速に成長する。

ビリンゴ(仔魚)

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて河川上流側に移動する。産卵期は早春。

ポシェットゲオヨコエビ

大型のヨコエビで、海藻等に付着している。
本調査では、お台場海浜公園での出現は平成 26 年以降となった。

ニッポンドロソコエビ

体長 1~2cm 程になるヨコエビの仲間。砂底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。東京湾では最も普通に見られるヨコエビの一つ。

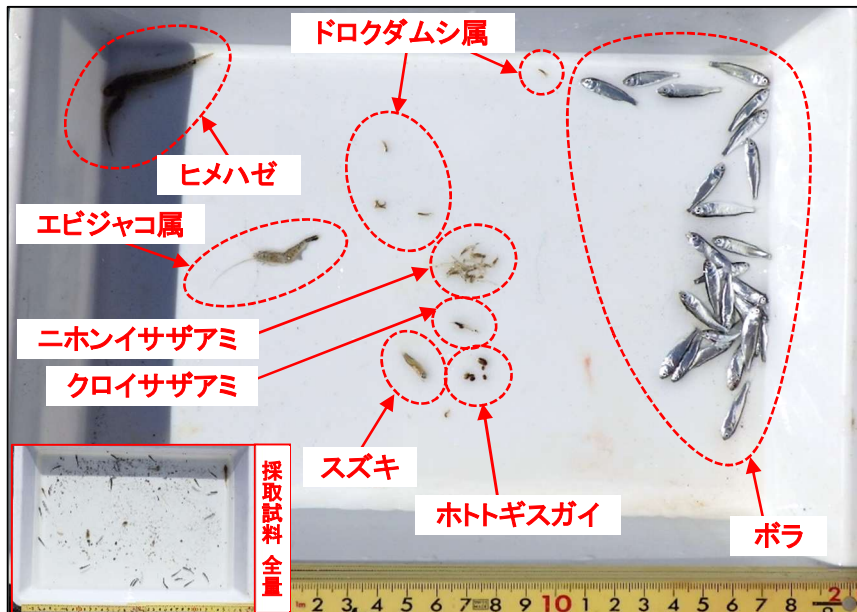
シラタエビ

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

多毛類

生活様式も食性も多様な生物。多毛類はあらゆる水環境に生息し、たくさんの生物の餌となっている。写真上はスピオ科、写真下はサシバゴカイ科とみられる。

森ヶ崎の鼻 採取試料

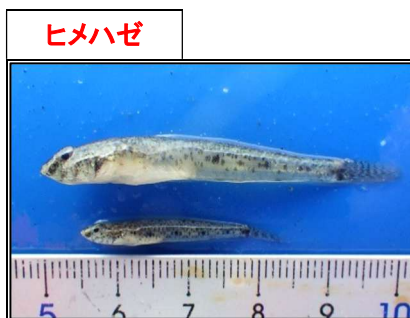


羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周り「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

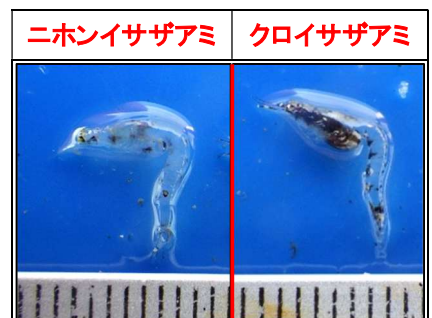
●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm



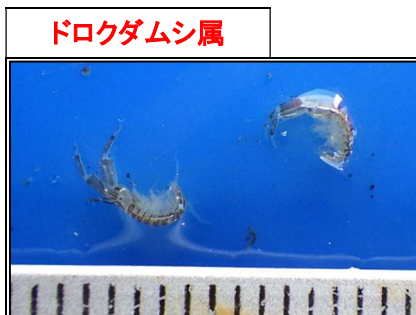
東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。コノシロ同様、成長するにつれて、ハク→オボ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。



内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は5月から9月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。下顎が上顎より突出しているのが本種の特徴。



汽水域に生息するアミの仲間。ニホンイサザアミは体長10mmほど、クロイサザアミは体長15mmほどになる。両種とも河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。



体長7mmほどになるヨコエビの仲間。腕のように見える大きな第二触覚が特徴。泥等で管を作り、そこに棲む。内湾等に多く出現する。



砂泥底に生息するムラサキイガイの仲間。富栄養な海域では互いに足糸(そくし)を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。



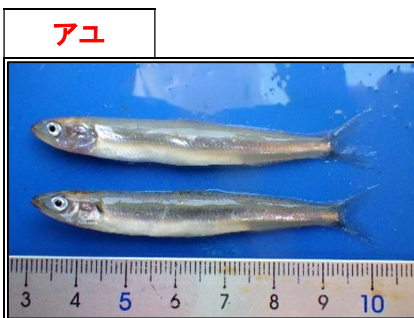
稚魚等を捕食する小型の甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm



夏から秋に河川中流の砂礫底に産卵し、10日から2週間後にふ化する。仔魚は干潟周辺で3、4cmになるまで滞り、その後、河川を遡上する。今回出現したアユは成魚に近い外観であり、河川へ遡上するための準備がほぼ整っていると考えられる。



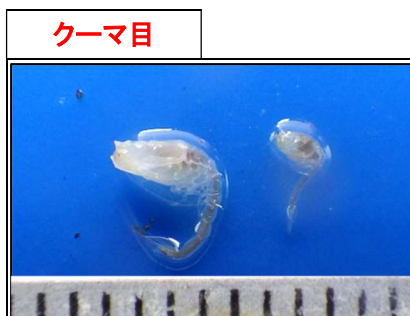
体はミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。全長4cmほど。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。



河口付近の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。エドハゼによく似るが、体側に明瞭な横斑(トラ模様)や下顎の腹面にひげ状の突起があるのが本種の特徴。



稚魚は2～4月に干潟等の浅所に出現する。夏には湾奥のやや深場の砂泥地に、秋から春には湾奥に分布するようになる。鱗がなく、体側に石状の骨質板があることが名前の由来となる。



長い尾節が特徴の小型甲殻類で、体長は7mmほど。日中は砂泥中に潜っているが、夜は海面近くに浮上して餌をとる。



殻高15mmほどになる。殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水深3mの砂泥底に生息する。魚や貝の死骸を食べる性質があり、「海の掃除屋」と呼ばれている。